

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名 岐阜本巣特別支援学校運営協議会 (第1回)

2 開催日時 令和3年6月24日(木) 13:00~14:50

3 開催場所 岐阜本巣特別支援学校 北館3階 多目的室

4 参加者

会長	神山 弘彦 様	岐阜市西秋沢自治会長
副会長	山田 孝治 様	北方町商工会専務理事
委員	森 久子 様	本巣市青少年育成推進委員 本巣市主任児童委員
	松本 和久 様	岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修教授
	高倉 勇 様	本巣市民生委員児童委員協議会 児童委員
	牛丸 真児 様	瑞穂市社会福祉協議会 福祉総合相談センター相談支援専門員
	橋本 民子 様	本巣市障害者生活支援センター「えがお」
	板倉 寿明 様	愛知淑徳大学講師
	河合 一恵 様	岐阜本巣特別支援学校PTA会長
	真鍋 富子 様	岐阜本巣特別支援学校PTA副会長

学校側	吉田 晃樹 校長	松野 聡美 事務部長
	樽井 良和 小中学部教頭	福井三和子 高等部教頭
	松本 深香 小学部主事	山内 康弘 中学部主事
	栗原 利樹 高等部主事	肥田 幸宗 教務主任

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 学校運営協議会の趣旨説明
- (2) 令和3年度 学校運営の基本方針について
- (3) 令和3年度 各学部経営の重点について
- (4) 学校と地域、関係諸機関との連携について

意見1: ICTはよりよい学びのための「手段」であるということを十分に念頭に置き、学習の本質を見極めて取り入れてほしい。時にリアルのほうがいい場面でICTを使っている事例もある。ICTとリアル、それぞれの良さを生かして取り組んでほしい。

⇒ 県から一人一台タブレットの配備が完了した。タブレットを使ってコミュニケーションの支援を行ったり、アプリを使って学習をしたりして活用している。今後もよりよい学びのために、また、コロナや非常変災時等で学級閉鎖や休校になった際に学びを止めない意味でも活用していきたい。今年度、教務部・研修部・学習支援部のメンバーでICT活用チームを立ち上げて取り組んでいる。

意見2：就労について実習や体験をした時の生徒の実感はどうか。

⇒ 生徒は実習にポジティブに臨んでいる。実習先には、事前に個々の特性や状態、配慮事項や支援についてお伝えし、連携をとっているため、事前学習による生徒の実習に対するイメージと大きく異なることなく取り組んでいる。実習中にミスがあったときには、次は気をつけようと思う生徒もいる。

意見3：ミスをした時に自分で何とかしようとする力は社会では必要である。企業側も現在、人手不足の状況がある。我々も力になればと考えている。

⇒ 企業には個々に合わせた合理的配慮をしていただいている。実習や体験で明らかになった課題について学校で取り組んで解決し、次の実習で生かしていけるような指導をしていきたい。

意見4：視覚障がい者のためのスマホと連動した靴の開発例など、身体障がい者へのICTの活用事例はわかりやすい。先日、ASDの方が点滴をする際にスマホのアプリを使ってやり取りをしていた例があった。社会では活用が進んでいる。

就労先の資料をみて、一般就労をする生徒の数が多くてすごいと思った。しかし卒業後、一般就労をしても離職するケースも多い。大切なのは「楽しんで」働くこと。「やりがい」を大切に支援している。無理に一般就労がいいということではなく、その子のやりがいを大切にした就労支援をしてほしい。

⇒ 「働く」ことは人生の手段の一つだと考えている。楽しく仕事をするということは大切にしていきたい。

意見5：校内作業実習等では、仕事が少なくなってきたなど苦勞されていると思う。学校だけでなく社会全体で力を合わせて取り組んでほしい。

小学部の児童数増加に驚いている。大きな問題である。今後学校としてどうしていくのかという展望があるか。小学部児童の大幅な増加は何を意味しているのか。

⇒ 小中学校が発達障害の対応に苦勞しているということが理由の一つではないかと考えている。インクルーシブ教育の考え方が浸透してきたと考えられるが、本校としては、教室が足りていない。また、重複障害の児童生徒が増えている。近年は、就学区域について、主たる就学先（岐阜市の児童生徒は、知的障がい：岐阜特別支援学校、肢体不自由：希望が丘特別支援学校、病弱：長良特別支援学校）を、教育相談の際に明示している。

⇒ 地域支援センターのセンター的機能がもっと活用され、地域の幼保小中高にいる困り感をもった児童生徒や保護者、先生方を支援していくことが期待されている。特別支援学校の専門性をもって地域の幼保小中高を支えていくことへのニーズは高い。特別支援学校のセンター的機能の充実を図っていきたい。

意見6：重複障害の保護者の声として、「岐阜本巣特別支援学校は知的障がいの児童生徒との交流があり、刺激になることが魅力だ。」と聞いたことがある。以前に比べて、障がいの捉えのハードルが下がり、特別支援学校で手厚く支援をしてもらいたいという保護者の気持ちもある。以前別の会では、特別支援学校コーディネーターの先生が専任ではないためになかなか活用できないとか、特別支援学級の先生方が特別支援学校コーディネーターのことを知らないといった話を聞いた。小さいうちにはいろいろな仲間と学ぶことが大切だと感じている。

意見7：ある市の特別支援学級の先生と話す機会があり、支援に悩んでいる、わからないことが聞けないなど困っているという話を聞いた。コーディネーターの先生の活用は大切だと感じている。本校のコーディネーターの先生が増えたということはよいことだし、さらに充実させることもお願いしたい。

意見8：本校の卒業生をみることが多いが、彼らは、「僕はこうなりたい」という思いをもって生き生きと働いている。バイクの免許を取って働いている例もある。「夢を育て、未来を創る」という校訓の話を聞いてなるほどと思った。子どもたちに「選び取る力」を付けてもらっていると感じている。挫折するときもあるだろうが、その時には皆で支えることができたと思う。

意見9：小学校のころから特別支援学校にいる子ども、子供会に入ってもらっているケースがある。地元小学校での通学班や異年齢での活動を見ると、「みんなで育っていく」ことの大切さを感じる。本巣小学校は支援学級が6クラスある。先生方が専門性をどれだけもっているかはわからないが、個々にかかわっている姿はありがたい。地域の子は地域でというのは大切である。一方で専門性のある特別支援学校をというニーズもある。特別支援学校の先生の活用は重要

である。

意見10：コロナ禍で、地域とのつながりがなくなってしまった。地域の住民は「Café 和一なごみー」をととても楽しみにしている。コロナ終息後、再会を楽しみにしている。

(5) 高等部の新しい作業製品価格の検討 織リボン 400円 (案)

意見1：350円くらいだと400円より値打ち感がある。児童生徒も求めやすい。

意見2：350円が難しいなら、大きさを変えて小さくしてもいいかもしれない。小さくするには技術的な問題もあるかとは思いますが検討されてはどうか。

⇒ 検討する。

6 まとめ

- ・第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。
 - ・ICT活用については、それが学習活動のすべてではなく、学習場面や児童生徒の実態に応じて有効な使い方を意識して活用することが大切だという意見があった。ICT活用の推進にあたり、改めてそのことをふまえ、今回の意見を職員にも周知し、有効に活用していくことに努めたい。
 - ・「働く」ことについて、実習を通してつきたい力は何か、実際に社会に出て働くにあたり、大切にしたいことは何か等、貴重な意見とともに、実習先や就労先など協力したいという心強い応援の言葉も得られた。
 - ・地域の小中学校などは、特別支援学校の職員の専門性を必要としていることが多いといった意見があった。地域支援コーディネーター職員を大いに活用していただくことが、地域との連携になり、我々職員の専門性の向上にもつながると考える。
 - ・コロナ禍で現在は閉店しているが、地域の方々は「Café 和一なごみー」の再開をととても楽しみにしているということで、この地域に、本校に対するよき理解者、応援していただける方々がいらっしゃることをありがたく感じた。
 - ・コロナ禍において、行事や活動が制限されることは多々あるが、そのなかでも感染対策をしっかりとりながら、できることを工夫して学習活動をすすめていくことが大切である。
- 今回、得られた貴重な意見や助言を、今後の学校運営に活かしていきたい。